NPO 法人岡崎がくどうの会

第 47 回全国学童保育指導員学校･西日本･愛知会場（20220605）レポート

【クラブ】（あそびばクラブ）
【名　前】（島田歩実）

① 午後に参加した講座のタイトルをお書きください。

（実践）講座（№8）　（しょうがいのある子どもをふくむ生活づくり）

※全体講座のみに参加された方は、全体講座のタイトルをお書きください。№と選んだ理由は必要ありません。

② この講座を選んだ理由をお書きください。

日々の保育の中で、障がいをもつ子とそうではない子が一緒に同じ空間で、“どの子も気持ちよく”生活を送ることができるようにすることの難しさを感じ、悩む場面がたくさんあります。障がいをもつ子もそうではない子もあそびばクラブで気持ちよく生活を送ることができるために何ができるのか、どうしていくべきか、引き出しをひとつでも多く学びたいと思い、この講座を選びました。

③ 本日の講座で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

今回も様々な学びを得ることができました。また自分の中で、いろいろなことを考える、見つめなおす機会にもなりとても実りのある時間となりました。ありがとうございます。

全体会にて心に残ったお言葉があります。「コロナ禍により、あそびやたわいもない無駄話、交流が自由にできなくなってしまった。これらは生活の潤滑油であるのに」というお言葉です。体も心も特に豊かに成長していく小学生時代において、いろいろな人との交流や経験はとっても大切なものだと思っています。嬉しくて楽しくて笑ったり、悔しくて反省して泣いたり、どうしても納得できずに怒ったり、誰かに優しくしてもらって助けてもらって心が温かくなったり、頑張って努力して達成感を得たり。そうやって、いろいろな経験の中で出会いや感情を大切にしていく中で、豊かさって育っていくのかなと思います。

今のご時世、どうしても制限や禁止が多く、人との交流や感情の動きが少なくなってしまいがちです。だからこそ、①子どもたちとの会話を積極的に大切にすること②「どうしたの？」と声を掛けること、話を丁寧にきくこと③気持ちに気付かせ、共有すること　を日々の保育の中で意識をしていきたいと思っています。③は例えば、歯が抜けて嬉しそうに報告に来てくれた子に対して。「おめでとう！！」と私とその子で喜びを共有し合ったのですが、どうしたの？と寄って来た子にも「歯が抜けたんだって、おめでとうだね～！」と拍手をしながら言うと「おめでとう！」と一緒に拍手をして喜んでくれました。何だかみんなで喜びを共有できるって嬉しいことだよなと感じました。また、転んでしまった１年生の子に、絆創膏をすぐに貼ってくれた４年生の子がいました。４年生の子にありがとうと褒めるだけではなく、「～ちゃんに貼ってもらってありがとうだね。よかったね！」と１年生の子にも声を掛けました。嬉しかったな、助けてもらったな、という気持ちを再認識できたらいいなと思っています。

“誰かが助けてくれて嬉しかったな”、の他にも“頑張って挑戦できて良かったな”、“ケンカして怒れたけど、お互いの気持ちを言い合えたな”というような様々な経験や思いを学童生活の中でたくさんさせ

てあげたいなと思いました。

もうひとつ「幸せは自分自身で決めていけばいい。子どもがこうしたいと自己決定したことに対して大人の応援、見守りが大切である」というお言葉がありました。どんな時も見捨てないで見守って応援していく、と仰っていたように、成功しても失敗しても遠回りしても、どんな時も変わらず、時に背中を押しながら、時に隣を走りながら、応援してくれる大人が側にいてくれることが子どもにとってとても大きな支えになるのだと感じました。子どもたちが毎日ただいまといろいろな感情を抱えて帰ってきてくれます。どんな時も、いつも変わらず笑顔で「おかえり」と待っていてあげたいですし、子どもたちの選択や頑張りを常に言葉にしてたくさん認め、側で応援していけたらいいなと思っています。

分科会でも、講師の先生や事例を出してくださった方はもちろん、様々な皆さんの悩みや思いをきくことができてとてもより良い時間でした。

この講義の中で、“受容する”というお言葉がたくさん出てきました。「障がいのある子は特に、受け止めてもらえていないと、“オレなんかどうせ”という自己否定感を強くもってしまいがち。まずは私たち指導員や、一番は保護者が障がいのことを受容する、受け入れないといけないと思う。みんなが受け入れればみんなのまなざしがいきやすい」と仰っていました。この“受容する”って簡単なことではないなと感じました。特に障がいをもつ子どもの保護者の方にとって、障がいを受け入れるということは、相当な時間や気持ちの整理、周りの支えが必要なのかなと感じます。「子育てを一緒にやっていきましょうね。辛抱強く一緒に見ていきましょうね」の気持ちを大切にしていきたいと仰っていましたが、今の私にできることはまずはこの姿勢を大切に貫き通すことかなと感じました。また講義の中で、『ふつうってなんだろう？』という動画を観ました。ちょっとしたことですぐにカッと怒れてしまう男の子の動画でした。もしかして障がいかもしれないけれど、でもその子は「体の中にあるおこりんぼうとうまく関われない症候群」と自分で名付け、“おこりんぼうとうまく関わっていくやり方”を一生懸命周りの手をかりながら葛藤しながら試していました。「みんな誰しも小さくしたいもの(すぐに怒れてしまう等)をもっているんだよね、どうしたら小さくできるのか一緒に学び合えるといいんだよね」というお言葉がとても心に残っています。障がいがある子もない子も、みんな多かれ少なかれ、小さくしたいものをもっていること。その小さくしたいものと、どう向き合っていくか、みんなで向き合っていけるようにすることが大切なのだなと学ばせて頂きました。どう向き合い、さらに周りの理解を得ながらみんなで向き合っていくかというのが今の私にとって大きな課題のひとつなので、いろいろな方のご意見ややり方をお聞きしてこれからも勉強していきます。そして“その子に合った向き合い方”を一緒に考えていけたらいいなと思いました。

※提出されたレポートは、当会の広報誌やホームページに掲載する場合もありますので、あらかじめご了承ください。

※〆切は、6/18（土）です。常勤専任指導員に手渡し、または okazakigakudou@yahoo.co.jp までお送りください。